

日本洋書協会会報

Vol. 34 No. 7 (通巻398号) 2000年7月

理事会報告

6月23日(金)

1. (有)オビワン・ケヌービーの廃業による退会申し出を受理した。
2. 以下の委員会報告を了承した。
 - ・2000年版ダイレクトリーに編集上の不手際により幾つかの誤りがあったことを陳謝する。ホームページに関して、残る作業のスケジュールを確認し、運用方法等を検討・協議した。(議事録提出)
また、関西会員への説明と意見交換のために6月28日に委員を1名派遣する。
(ダイレクトリー委員会)
 - ・ドイツ文化センター開催のシンポジウムへの招待状を会員各社へ配付した。7月下旬の図書館見学を企画している。[Invitation to JAIP] 改訂版作成の準備を開始する。(広報・渉外委員会)
 - ・東京国際ブックフェア・洋書バーゲンでは約1000万円の売上があった。昨年に続きこの内より20万円を協会に寄付した。(事業委員会)
3. 第21回国際英語教材展後援を承認した。

海外ニュース

ベストセラーも E-Book で?

ベストセラー作家スティーブン・キングは、e-book

“*Riding the Bullet*” をオンライン上でのみ販売して大評判となったが、その2作目を発表することにした。今回は連載形式で、読者には信用貸しによる支払いを求める。彼はまた、新作については Simon & Schuster を通さず、彼自身の出版社を使って刊行することとした。このベストセラー作家が、今後強力な自費出版を展開するという新たな問題も話題になっている。

新作 “*The Plant*” は未完の小説で、一回毎のダウンロード料金は1ドル、あまりに多数の人々が不法に読み出した場合にはキングが執筆を中止することが決められている。

自身のホームページ上で、キングはファンに対して “*Riding the Bullet*” が刊行されて24時間以内にはもうハッキングされ、フリーに公開されてしまったと述べている。「最新の技術が急速に発達して、著作権を守ろうとするあらゆる努力は、リスクをはらんだ危険な計画となってしまっている。ジョークみたいだが」

キングはまた、ホームページ訪問者に、この e-book を出すべきか、それに対して料金を払う気があるかをアンケート調査したが、94%が小説を希望し、料金を払うと答えている。彼はこの結果に満足しているようで、「皆が望んでいるようだから、出すことにする」と言っている。6月14日付のコメントによると、プロジェクトの最新情報を7月8日に発表し、e-book は7月中旬に刊行されるとのこと。

PUBLISHERS WEEKLY/JUNE 19, 2000

目次

理事会報告・海外ニュース	1	マイントウの西暦2000年	3	定年と生涯現役	6・7
文化厚生委員会だより	2	パソコン外論考(其7)	4	広告	8
		出版文化史逍遥	5		

箱根カントリー倶楽部

2000年5月20日(土)

3年ぶりに箱根で定時総会が行われ、懇親会。2次会のカラオケは理事長はじめ、皆さん全員参加で狭い部屋で、肩をすりあわせながら盛り上がりました。

コンペ当日は皆さん早起きして温泉につかり、サウナに入り前日の酒を抜いての出発。天気予報が当たり、小雨模様。テニス組はコートが濡れて中止になったよう。でもゴルフはやるのです。誰もやめようなんて言わない。傘をさしながらのコンペは何年ぶりか。たまには年貢を納めないと。コースは芦ノ湖北側の仙石原に広がる丘陵コース。丘陵といってもほとんどフラットで天気が良ければすぐきれいなコースです。

さて結果は。丸善会長鈴木さん、本部長の戎井さんら、上司の顔色をうかがいながらも、遠慮のない松浦さん(丸善)。うまくまとめあげての優勝。かなり練習しているなど想像できるきれいなスイングで、体のわりにはロング・ヒッター。ドラコン、ニアピンもとって、今日は松浦DAY。韓国で長い取引先と連日ウイスキーを生で飲んで帰ってきて、風邪で調子が悪いとぼやいていた斎

釣り同好会 キス釣り大会

5月13日(土)

去る、5月13日(土)恒例の釣り大会(キス)が茅ヶ崎で開かれた。

燦々と降り注ぐ陽光にパールピンクの魚体が踊る。初夏の潮風が心地良い。ブルブル、ルンルン竿先から伝わってくる快い魚信。「きた！」飲みかけた缶ビールを置き、にっこり微笑みおもむろにリールを捲く。そういう1日を思い描いていたが…。

初参加5名を含む18名が船宿ちがさき丸に揃った頃雨が降り始めた。何故か協会の釣り大会は雨の日が多い。きっと誰か雨男がいるんだ(誰一人自分だとは思っていない)。雨でも釣果さえ良ければいいのだが…。

定刻の7時50分茅ヶ崎港を出船し釣り場に到着。いよいよ釣り大会の開始である。一投目、二投目、三投目、何処からも「釣れた」の声があがらない。この時厭な予感が私の脳裏を横切った。

やっと一匹めが釣れたのは、開始から30分程たってからだった。「いることはいるんだ」誰かの声が聞こえた。

藤さん(U.P.S)。クラブを握ると変わるのか、ベスグロキープと2位確保。道中使用クラブの話になって、ひょうきんな若いキャディーさんいわく、「家がツアー！」。プロに選んでもらったそうですが、桁が違いました。

最近不調ぎみだった西山さん(西山洋書)、久々に上位進出でスピーチも嬉しそう。

いつも名門クラブを紹介して戴き、ありがとうございます、中林さん。

成績

順位	氏名	所属	グロス	ハンデ	ネット
優勝	松浦 拓己	(丸善)	91	14	77
2位	斎藤 純生	(U.P.S.)	87	3	84
3位	西山 久吉	(西山洋書)	99	13	86
4位	戎井 忍治	(丸善)	103	15	88
5位	中林三十三	(日本出版貿易)	97	8	89

ベストグロス 斎藤純生(U.P.S.) 44 43 87

ドラコン 中林三十三(日本出版貿易) 戎井忍治(丸善)

大野利夫(日本出版貿易) 松浦拓己(丸善)

ニアピン 松浦拓己(丸善) 西山久吉(西山洋書)

鶴三郎(東亜ブック) 鶴竜次(東亜ブック)

(記 大洋交易 和田茂)

その後忘れた頃に釣れてくる。時間ばかりが過ぎて行く。全員苦戦。

そんな中、太陽図書小松氏の竿が大きく弧を描いた。大物だ。慎重なやりとりが5分以上続き、上がって来たのは7~800gはあろうかという大穴子、無事タモに取り込みほっと一安堵。嬉しそうな会心の笑顔。羨ましい。

本命のキスは食い渋り、全員不完全燃焼で納竿となった。釣果は5匹が最高でなんと7名、あみだくじで以下の順位となった。運も実力の内。

初参加ながらこれだけの悪条件の中で4匹(も)釣った中村君江さん(大洋交易中村氏奥様)にコメントを求めたところ「楽しかったわ、又来ます」とのこと。初参加の皆様次回鰻釣り大会もお待ちしています。

優勝 鶴(竜) 東亜ブック 5匹

2位 岡村 ワタナベ流通 5匹

3位 広瀬 大洋交易 5匹

4位 内田 東亜ブック 5匹

5位 塚本 大洋交易 5匹

(敬称略)

(大洋交易 藤広瀬記)

マインツの西暦2000年

富田修二

今年のマインツは忙がしい。ミレニアムに加えて、グーテンベルク生誕600年、グーテンベルク博物館100周年記念の各種の催しが重なるからである。その催しは、1年間を通して博物館内やマインツ市の施設を使って行われる。本年行われる催しの主なるものを列記してみよう。

西暦2000年に向けて、グーテンベルク博物館は数年かけて改装中であった。展示内容や展示方法を以前と大幅に変えて年初に一部開館する。全館オープンは4月14日で、この日に大きな祝典が催された。1年間を通じて約20回の展示会が計画されている。その中で最大のものは、4月15日から行われた「グーテンベルク：アバンチュールとアート」と題して行われる展示会である。グーテンベルクの生涯とその時代及びその技術を展示品を通じて認識できる展示会となっている。その他約20回のコンサート、約30回の講演会、約15回の討論会、約25回の子供のための各種の催し、4回の慈善活動、5回のワークショップでの実演が計画されている。5月14日には国際マラソン大会が行われた。また、印刷協会、デザイン同盟、図書館協会、新聞社連合、出版社協会、書店協会、国際グーテンベルク学会、ヨハネス・グーテンベルク大学での書物史学会及びその他の会議も予定されている。

グーテンベルクの生誕を祝うことが行事として定着したのは、今から丁度100年前である。1900年6月24日聖ヨハネの日に、マインツはグーテンベルク生誕500年の祝賀を行った。それは祭り好きのマインツ市民がこれまで見たものの中で壮大な華やかな祭りであった。市長は祝賀の席上「偉大な息子」であり、可動活字による活版印刷術の発明家であるヨハネス・グーテンベルクの業績を称える恒久的な施設を造ることを提案した。その結果として、1901年6月25日にグーテンベルク博物館が開館した。

グーテンベルク博物館は、マインツの中心地で最初の印刷本が数世紀前に作られた場所から遠くない所にある。1000年の歴史を持つ大聖堂の向い側にあるグーテンベルク博物館は、古いルネッサンス型の建物を利用している。それは「ローマ皇帝の館」と呼ばれている。この館は、莫大な富をワインの取引で獲得したエドムント・ロコッホによって、30年戦争（1618—1648）の暗い年月の間に個人の館として建てられた。この館は、その後マインツ

市の所有となり1901年から博物館として使用されていたが第2次大戦中（1945年2月27日）全焼した。そして多くの蔵書類も火災により破壊された。戦後、「ローマ皇帝の館」の完全な再建に着手した。そして、博物館を拡大して広大な展示ホールを別に造った。開館の祝賀式典は1962年に行われた。1990年には、グーテンベルクの時代の印刷所を想定した工房が設けられた。

現在の博物館には、約7万冊の書物が収蔵されている。展示室には、メソポタミア地方で数千年前から使われていた粘土板や古代エジプトで使われていたパピルス文書から西洋及び東洋の古写本、インキュナブラ（揺籃期本）、16世紀から20世紀に印刷された重要な作品が展示されている。

部屋全体が重厚な金庫となっている特別室には、グーテンベルクによって印刷された作品が展示されている。ソルムズ・ライバッハ伯爵旧蔵及びサー・ジョージ・シャクバラ旧蔵の2種の『42行聖書』がある。前者は1925年に、後者は1978年に博物館が購入した。その他、グーテンベルクの作品の『最後の審判の断片』、『30行免罪符』、『40行ドナトゥス文法書』等が展示されている。グーテンベルク時代を想定した印刷工房では、当時の印刷機、活字、組版、活字ケース、紙、インク、インクボールといった各種の印刷用具が展示され、入館者はそれらを実際に使って550年前を実際に体験することができる。

印刷産業全体の恐るべき技術革新によって、グーテンベルクがこの分野に果たした役割は次第に忘れ去られようとしている。現在ではもはやグーテンベルクによって発明された方式によって印刷されることはほとんどないだろう。しかし冷静に考えてみれば、現代の電算写植による印刷も基本的にはグーテンベルクが行った原理で動作していることに気付くはずである。およそ現代的な生活を営む者にとって、グーテンベルクのお陰を被らない者はいない。グーテンベルク生誕600年にあたって、また第2次情報革命という真只中にある現在、彼の発明した技術とその時代をあらためて考えてみる機会としたいものである。

（丸善・本の図書館長）

新・パソコン外論考 (其7)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆Give me the simple life./簡素な生活がいいの・・

子曰、敏而好學、不恥下問、是以謂之文也、

The Master said, 'He was quick and eager to learn: he was ashamed to seek the advice of those who were beneath him in station. That is why he was called "wen".'

(論語/公治長・Confucius; The Analects/BookV)

【超拙意訳; 先生はいわれた。「彼は機敏で学問を好きだったよ。しかも、自分よりも地位能力の下位のものにも、アドバイスを受けることも恥しなかったんだよ」

【外注; 弟子の子貢が「孔“文子”」(衛の重臣で専断の振舞いが多かった)という立派な諡(おくりな)をもらうには、いささか疑問の多い人物に対しての評価を先生に問いただした条文です。それを受けて、孔子は、彼の人物の問題点よりも、美点のみを取上げたわけです】

★Internet 関係のパソコン英語*****(3)

前号では、E-mailのアドレスの件でした。で、今回も同様に名刺から始まります。就中、知人(企業勤務の方)からいただく名刺には、電話・ファクシミリ、【E-mail】の下に【Web site】または【Web Pages】の【URL】、すなわちアドレスが印字されています。

【URL】=Uniform Resource Locatorとは、インターネット上の【資源認識の統一的システム=Webの資源探索統一方式】、まあ手っ取り早いえば、【Web site】のアドレスということです。

例えば、次のような印字されています。

【http://www.xxxxxx.co.jp/suzukiky/xxxxx.html】

【http】=Hyper Text Transfer Protocol [多重文書転送変換規約]の意味で、protocol(オリジナルは、条約原案、議定書ですが、Net上では「通信の取決め」の意)部分です。なお、Hyper-という接頭語は、様々な領域で複合語を輩出する現役の造語能力を有している便利な言葉です。当該関連として後述いたします。

因みに【http】略語の読み方は、ママ、HTTP(エイチティーティーピー)です。【:】は、colon(コロン)。発音もコロン。【/】は、slash(スラッシュ=さっと切りつける意)、slant(斜線・スラント)。通常は、スラッシュと発音。これには、2種類ありまして、【/】の右上からの斜線 forward slash と、左上からの back

slashがあります。この逆スラッシュは、日本語環境のキーボードでは「¥(yen)」マーク記号となっていてます。このあたりは、後稿のキーボード・記号関係のところでも取り上げたいと思っております。

【www】=World Wide Web [全世界広域組織(Web=クモの巣を張るとか織物・組織)の意]は、sub-domain(副領域名)です。発音もママで、ダブリュー・・・と発音しますが、カッターイので単にWebウェブ。

【.]は、dot(ドット)。かつては、full stopとかピリオド periodの方が通りがよかったです。。。

【xxxxxx.co.jp】は、前号で既述のdomainです。

【suzukiky】は、user name(ユーザー名)。

【】は、通常はkeyboardの端にあって、めったに打つこともありませんが・・・。筆者などは区別的発音記号ぐらいにしか考えておりませんでした。スペイン語のnの上につくやつ、ポルトガル語では母音の上について鼻母音を表わすぐらいの知識しかありません。まあ発音は、かつて筆者が勤めておりました出版社の身内関係校正印刷用語として、「波型マーク」とか言って誤魔かしていましたが、正確にはtilde(ティルド=区別的発音符、波型符)。発音も、波型とかニョロニョロとか言わずに、ティルドと言った方が通りがいいようです。Netの普及とともに、主役に上がった感じのする文字です。

Net上で使用するときは、【xxxxxx.co.jp】のプロバイダーのサーバー内に少なくないsite fee(手数料・隠語ですが所場代、street fee/tax)を払って、suzukiky氏のWeb pagesがあります、という意味です。

【xxxxx.html】は、main file(主ファイル)名です。

なお、【html】の略語も、発音はローマ字のママです。

【html】=Hyper Text Markup Language(多重文書記述言語)の略語です。Markupというのは、出版印刷関係では、「組版指定=組み方、文字種等々」という意味で使用しています。

この【html】という略語を見て、過ぎ去りし15年ほど前の略語【SGML】が忽然と目蓋に浮かびました。

すなわち、Standard Generalized Markup Languageの略語です。当時は、CD-ROMマルチメディアデータフォーマットのハンドブック作成に携わっていたのです。で、訳語は、「標準汎用マークアップ(マーク付け)言語」。

当該の【html】は、この【SGML】の簡略版です。次号は、記号とe-mail用略語を。(乞御期待)

洋書の歴史雑記帳〔I〕 吉利支丹と洋書(1)

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆ザビエルの日本布教と洋書の将来

日本に洋書の入ってきた起源を確定することは難しいが、キリシタン宣教師ザビエルが1549(天文18年)に来日したとき聖書などを持ち込んだのが、記録に見られる最初の将来ではないかと思う。しかし、ザビエルの来日以前でも、鉄砲を伝えたポルトガル人は1543(天文12年)に種子島に来航しているし、また1944(天文13年)には『アジア放浪記』(1614)で著名なポルトガル人メンデス・ピントが来日し、1547(天文16年)にポルトガルの商人でザビエルに日本情報を提供したジョルジュ・アルヴァレスが薩摩半島の山川港に入津しているので、彼らが書籍を持ち込まなかったという確証もない。

横道にそれるが、『アジア放浪記』(江上波夫訳・解説)はヨーロッパで広く愛読された探検記で、当時、荒唐無稽な伝奇冒険物語で史実については疑わしい点が多いといわれたが、最近ではルポルタージュ文学として、16世紀のアジアの姿を伝える貴重な文献と評価されている。この本には、彼自身種子島に鉄砲を伝えた3人のポルトガル人の一人であると記しているが、ポルトガルの研究と日本の資料『鉄砲記』を比較・総合して、ダモック、ゼイモト、ベイショットの3名が1542年に種子島に漂着し、そして鉄砲はその翌年再来航したゼイモトによりもたらされたと解釈する学者もあり(所荘吉・陳舜臣「鉄砲伝来」『日本史探訪』11)、西洋人による日本発見の年代は、研究者の間でも1542年か1543年か確定していないという。ともあれ大航海時代「銀の島」(ザビエル書簡)として冒険商人たちの憧れた日本は、こうして西洋との通交が始まったのである。1542(天文11年)というと、室町末期、戦国乱世が動きだした時代であった。

さて、イエズス会創立者の一人であったフランシスコ・デ・ザビエル(Francisco de Xavier 1506-52)は、インドや東南アジアでの布教のさなか日本人の弥次郎(アンジロウ)にめぐり合い日本での宣教を決意した。そして、数名の宣教師を伴い嵐の東シナ海を越えて1549(天文18年)に鹿児島湾の奥深く、稲荷川の河口に開かれた戸柱港に上陸した。現在、当時の港より沖合に広がった埋め立て地の祇園之洲にザビエル上陸記念碑が立ってい

る。ザビエルは、一衣帯水の桜島が噴煙を上げる美しい光景に心を奪われ、また来るべき布教の苦難を予感して身の引き締まる思いだったに違いない。

鹿児島では1年ほどの滞在で僧侶などの迫害もあって布教を断念し、また渡航前から考えていたとおり国王に謁見して布教の許可を得ようと、平戸へ渡り山口をへて京都に向かった。しかし、応仁の乱以後の度重なる兵火に荒廃した都のありさまに布教の希望をつなげず、11日間の滞在ののち堺から船出して1551(天文20年)に再び山口に入った。フロイス『日本史』によると、大内義隆にインド総督とゴアの大司教の書簡を提出し、数々の贈り物をして布教の裁許を受け(『群書類従』「大内義隆記」にも符合する文面あり)、また挿絵入りの豪華な聖書と美しく飾りのついた聖書注釈書を義隆に示したとあり、洋書の搬入が確認できる。

ザビエルは説教所として廃寺大道寺を与えられ、日本で初めて生まれた教会で布教を始めた。現在その地はザビエル公園となって、大正15年に建てられた記念碑が彼の事跡を私たちに語ってくれる。また、亀山公園近くにはザビエルの山口来訪400年を記念して、バスクのザビエル城を模したロマネスク様式の荘厳な記念聖堂が昭和26年に建立され、礼拝堂には彼の生涯を物語る華麗なステンドグラスが掲げられて、訪れる人々の敬虔な信仰心をかき立てていた。この旧聖堂は惜しくも平成4年に焼失し、現在は三角錐のモダンな建物に変わり山口のカトリック信仰の中心になっている。

ザビエルの日本における布教は、この二度目の山口の時代が一番満たされたものであったろう。2ヵ月で500名の信者を獲得した(「ザビエル書簡」)。彼は5ヵ月で山口を去り豊後に赴くが、居残った宣教師によって布教が続けられた。しかし、天文20年陶晴賢の謀叛で義隆が自刃し布教が危機に直面したが、新領主義長の庇護を受け、メンデス・ピントの資金で教会もよみがえり、一時期2,000人の入信者を数えたという。[参照文献(文中以外):河野純徳『聖フランシスコ・ザビエル全生涯』/岸野久『西欧人の日本発見』/吉田小五郎『ザヴィエル』]

定年と生涯現役

島岡 丘

どの会社も学校関係も定年というものがあり、一定の年齢に達すると引退させられてきたし、今も変わらない。国立大学では東大は60歳、筑波大は63歳、千葉大は65歳など、私立大では65歳から70歳という具合に多少の差があるが、定年退職のないところはない。たとえ働く意欲もあり、また企業にとって貢献度もまだまだ期待できる社員でも一様に定年の年になると引退させられる。

大学の場合は、定年後は全く無関係になるわけではなく、勤務年限の条件を満たし、推薦されれば、それぞれの大学の名誉教授になるわけである。ある名誉教授の会で長老の教授が「私の夢は定年制のない大学を作りたい」と挨拶されて、会場から拍手喝采を受けたことを思い出す。サンフランシスコ郊外に住んでいる私の友人は65歳以上が入学する大学（Fromm Institute）を作って地元の高齢者から喜ばれているが、このような試みが日本でも試みられてもよいのではないだろうか。

ついこの間、新大阪駅構内の売店で購入した諸井薫氏のエッセイ集『老いの気概』（経済界、本年発行）を帰路の新幹線で読んでいたら、定年制について、鋭い指摘が目にとまった。「高齢化社会、少子化現象を見直そう」という見出しで次のように書かれている。

「…五十年前は、定年と死がほぼ一致していたのに対し、現在は定年から二十年以上無為に生き続けろという社会なのだ。それも大病をして再起の気力も体力もない人や、寝たきりなら分からなくもないが、少なくとも過半数の定年後世代は、知力、体力、気力共に衰えを見せず、近頃のヘナヘナした若者なんかより、よほど頑張りが利く。」（125頁）

諸井氏はまた、元気印の高齢者まで、産業廃棄物のように打ち捨て、それでいて、その高齢者を養う年金や福祉予算の捻出に苦慮していることを指摘されている。

昭和20年代の日本人男性の平均寿命は54歳だったそうで、当時の企業が採用していた定年制は55歳で平均寿命と定年がほぼ同じだった（諸井氏、同書125頁）。今や平均寿命がその当時より四半世紀も延びている。私のまわりは主に外国語関係または英語教育関係の人たちであるが、定年後も活躍している人、さらに活躍できる潜在力をもっている人たちが多く。実際にこれまで、90才以上生き、80歳代でも執筆や講演会などで活動していた先輩

や恩師が少なくない。

若い人たちが昇進するのを妨げてはならない、あるいは、後進に道を譲らなければならない、との思いで定年を迎える人は黙って辞めていく。しかし、多くの大学では、辞めていく教授から少しでも多くのことを学び取ろうとして、退職前に、最終講義をお願いして、深い知識と叡知を拝聴するというイベントを設定する。これは辞めるほうも、花道を与えられた気持ちでうれしいものであるし、また、最終講義を聞く側もよい研修の場となる。

外国ではどうであろうか。学会の関係で M. A. K. Halliday という著名な言語学者と数年前オーストラリアで夕食を共にする機会があったので、日本で行われている最終講義のようなものがあるかどうかを伺ったことがあるが、最終講義のようなものは行わず、数人の教員たちと一緒にバーに行き、語り合うのが楽しみだと答えたのは意外だった。最終講義というのは日本人が考え出した慣例なのだろうか。

誰しも年を取っていく。人の世話にならないで、余生を楽しくまわりに歓迎されながら生きていくのはそれなりの努力がいるようだ。諸井氏も指摘されておられるが、年を取るとダンディーを目指し、体も清潔に保つことが必要だ。70歳代の生き方で手本となるの人はいくつもある。山本夏彦氏、会田雄次氏、マレーシアのマハティール氏などもそうであろうが、まわりを見渡すと、案外手本となるような人がいるものだ。

高齢でも、健康を保ち、有意義な活動をするにはメンタルなものとフィジカルなものとの両面が必要なようだ。運動をしない人でも結構長生きしている人もいるし、適度な運動をして汗を流し、若さを保つ年輩者もいる。メンタルなものとは頭によい刺激が絶えず伝わっているということかもしれない。外国語の学習や外国語の使用はその意味で役立つであろう。また、車の運転も脳への刺激という意味ではよいのかもしれない。運転中は反射神経を絶えず刺激するからだ。物事にとらわれないで晴耕雨読の生活に憧れる人も少なくないが、人間はその文字が表すように人と人とのつながりで生きていくものかもしれない。また、人との間でいろいろな刺激し合うのも若さを保つ重要な要素であると言えよう。

また、フィジカルな面では、テニスなどがよいだろう。ただし、テニスは雨天のときはできないし、コートを借りたり、手続きが面倒なこともあり、多くの人が気軽に

スポーツを楽しめるという点では卓球がよい候補になると思う。たまたま、地方で「渋卓」という言葉を耳にした。渋谷と離れていてもマスメディアのおかげで、新しいニュースは国内どこでも共有されるようになったのであろうか。

私自身も初めはテニスをしていたが、相手を見つけることもコートを確認することも面倒なので、卓球に変更した。卓球は年を取ってもできるスポーツであり、私自身も楽しんでいるので、少しそのこと書いてみたい。

1960年の頃は日本は卓球王国であったようだ。イギリスの滞在中、卓球をするのが日本人ということだけで、見に来てくれる人が少なくなかった。日中親善は卓球を通してということをご記憶の方も多であろう。

教授裏話などを聞いた際、辞書編集で有名なイギリス人の教授も卓球が好きで講義が終わるとすぐに院生たちと卓球をするのが楽しみにしていたそうである。卓球はやり始めると奥行きが深いことが分かった。力の入れ方、ラケットとの擦り方とその角度、相手のコートのどこを狙うかなどで様々な作戦が生まれる。うまい人のラケットは卓球台に平行に保たれているので、相手のコートからボールがはみ出してしまうことが少ない。

卓球には男女が共に楽しめるという利点がある。卓球には馬鹿力はいらないからである。スマッシュする角度、カーブのさせ方、ポジションなどを組み合わせて作戦を立てれば、女性も相手の男性を打ち負かすこともできる。難しいのは相手のボールの回転と着台の位置を読み取るということだ。それを素早く感知できればそれに対応した攻撃に移ることができるからである。

私の住んでいる区には区立のスポーツセンターがあり、卓球、水泳、バレーボールなど区民が楽しめるようになっている。私は週に1回は卓球クラブに行き、3時間ほど卓球をして汗を流すことにしている。全部で7面の卓球台があるが、いつも一杯になる。おそらく20数名が参加していると思う。コーチがきて毎回一人ずつ順番に指導してくれているので少しは私も向上しているのかもしれないが、試合にあまり慣れていないせいか、体が固くなって思うにスマッシュができない。クラブの中には77才の高齢者がいる。しかし実力はコーチとほぼ互角の腕前で私たちメンバーを上手に指導してくれている。その方も自分の技術向上を絶えず試みている。「練習をしないと力が落ちるので、上達しないまでも現状を維持するために毎週やるようにしています」と言われた時、練

習の継続はスポーツばかりでなく、他のことにも当てはまると思った、特に英語の力も絶えず英語に接していないと力が落ちるのではないかと思う。むかし、石橋幸太郎という英語学の先生が英語の勉強は山の斜面に荷車を引っ張り上げるようなもので、一日やらないと停滞するのではなく、一日分下がってしまうということを書かれたのを読んだことがある。何年かして、偶然先生にお会いしたとき、そのことを伺ったが、先生ご自身も、夜どんなに帰宅が遅くなっても、就寝する前に、必ず英語の研究をしていると語られた。大学者はやはり人一倍努力をされているということを知り、身の引き締まる思いがした。

最近の新聞雑誌を読むと暗い記事が多い。特に強盗、殺人、自殺などの記事が絶え間ない。誰も死にたいとは思わないだろうが、自殺者の数が交通事故で亡くなる人の3倍もいるというのは残念なことである、経済的な問題、家族やまわりから冷たくされるなどが自殺に追いやる原因なようである。人生の目標、例えば、スポーツの技術向上のような小さな目的をもっていると、気持ちを明るく保つことができると思う。このようなクラブに入り、スポーツを楽しむことによってずいぶん気分も明るくなるものだ。

しかし、スポーツを余り好きでない人も少なくない。足腰も弱り、スポーツは無理と思っている人もいる。スポーツ以外にも人生を楽しむ機会は他にもいろいろある。例えば、ホテルや様々なクラブなどを中心とした集いである。国際的なホテルチェーンを通して、一昔で考えられないほど幅広い交わりが可能になった。夫婦のどちらかが60歳になると「気軽に自由を楽しみたい」、「今だからこそ新しい自分にチャレンジしたい」夫婦に開かれているクラブがある。毎月4～6回の講演会、食事とトークの会、臨地ツアーなどが行われ、楽しい仲間作りや知識作りが行われているようだ。年会費も一人3万円前後である。私自身も楽しい雰囲気でおだやかな出会いの時を得たいものだ。しかしそれは将来の楽しみに取っておきたい。これまでやりたくてもまだやっていないことがあまりにも多すぎるからだ。

“I need you.”という声がある限り人生舞台での活動は年齢に関わりなく続けるほうが望ましいのではないかと思う。

(茨城キリスト教大学教授)

2000 フランクフルト ブックフェア 視察のぞき内
 (18. OCT. ~ 23. OCT. 2000)

格安航空券 + フランクフルト市内ホテル 宿泊 のお得な自由日程旅行プラン

～ スタンダード クラス ホテル <☆☆☆> ～	
インターシティーホテル プラン 5泊7日 ￥245,000 ※中央駅近く、見本市会場まで徒歩約 10 分	エクセルシオール ホテル プラン 5泊7日 ￥250,000 ※中央駅近く、見本市会場まで徒歩約 15 分
～ ファースト クラス ホテル <☆☆☆☆> ～	
ホテル モノポール プラン 5泊7日 ￥270,000 ※中央駅近く、見本市会場まで徒歩約 15 分	アラベラ シェラトン コングレス プラン 5泊7日 ￥275,000 ※見本市会場まで市電にて約 20 分
～ テラックス クラス ホテル <☆☆☆☆☆> ～	
アラベラ シェラトン グラント プラン 5泊7日 ￥355,000 ※市中心、見本市会場まで車にて約10分	ヒルトン ホテル プラン 5泊7日 ￥350,000 ※市中心近く、見本市会場まで車にて約10分

- * 上記料金は 10/17(火)東京出発、全日空・日本航空エコノミークラス利用、2名1室朝食込の料金となります。
- * 上記以外のホテルや他都市の手配も取り扱っておりますのでお気軽にご相談下さい。
- * 上記プランで既に、完売しているものもございます。ご予約の際は、お問い合わせ下さい。
- * シングル利用や延泊も設定できますので、ご相談下さい。

格安航空券のみの手配も承りますのでぜひご相談下さい。

(各航空会社エコノミー、ビジネスクラスのディスカウントチケットをご案内致します)

弊社では上記見本市への視察旅行を毎年企画しております。

また、上記以外のご旅行予定や、ご出張などございましたら、ぜひご相談下さい。



JATA 正会員(運輸大臣登録旅行業第1359号)

TOKYO - TEL:03-3402-9955 / FAX:03-3402-9698 (担当:藤代)

HOME PAGE : <http://www.jw-trvl.co.jp>

E-Mail : tet@jw-trvl.co.jp

2000年7月 通巻第398号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘
 ☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

URL:<http://www.jaip.gr.jp> E-mail:jaip@maruzen.ne.jp

印刷所 = 藤本総合印刷株式会社